

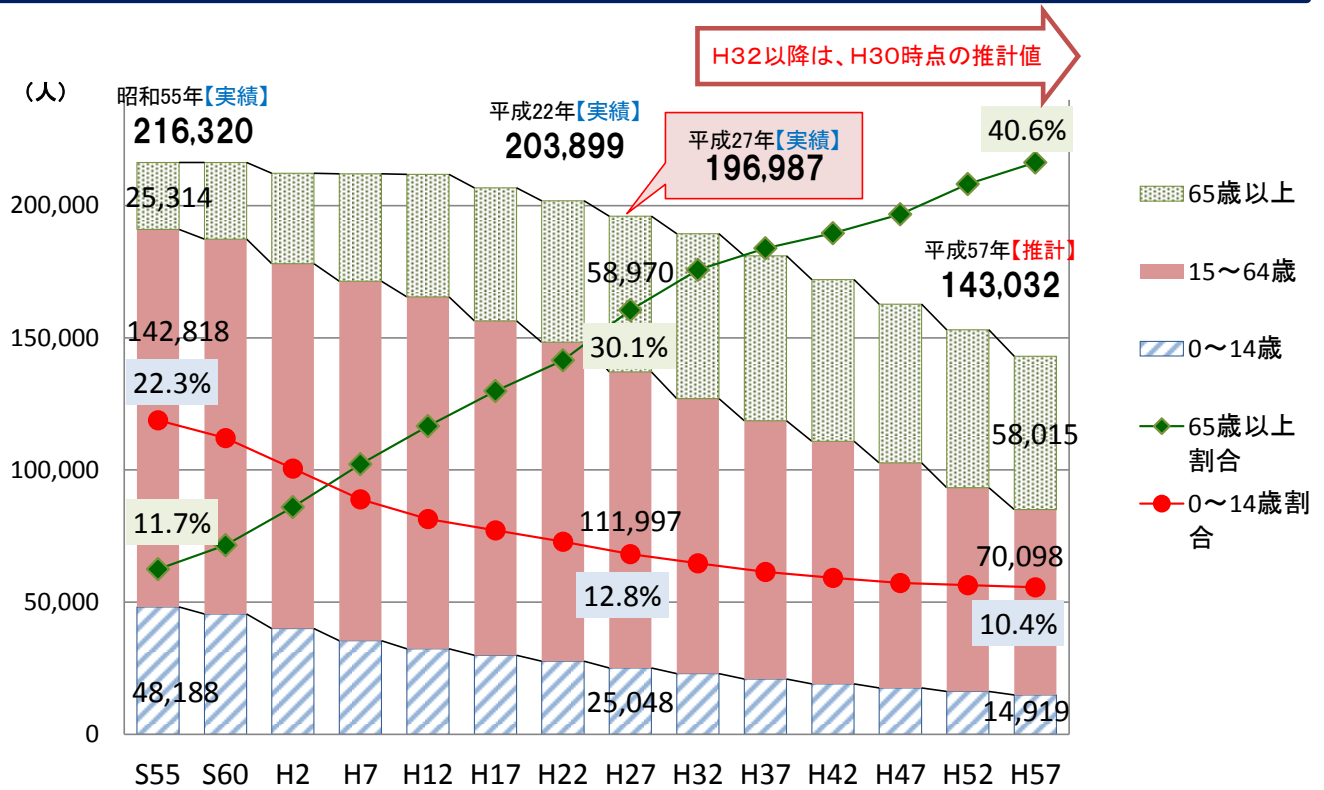
上越市の現状と課題

- 1 人口・世帯の状況
- 2 政策分野別基本施策の状況

1 人口・世帯の状況

(1) 人口

① 総人口の推移と将来推計人口（S55～H57）



出典 総務省「国勢調査」及び国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成30年3月推計)により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

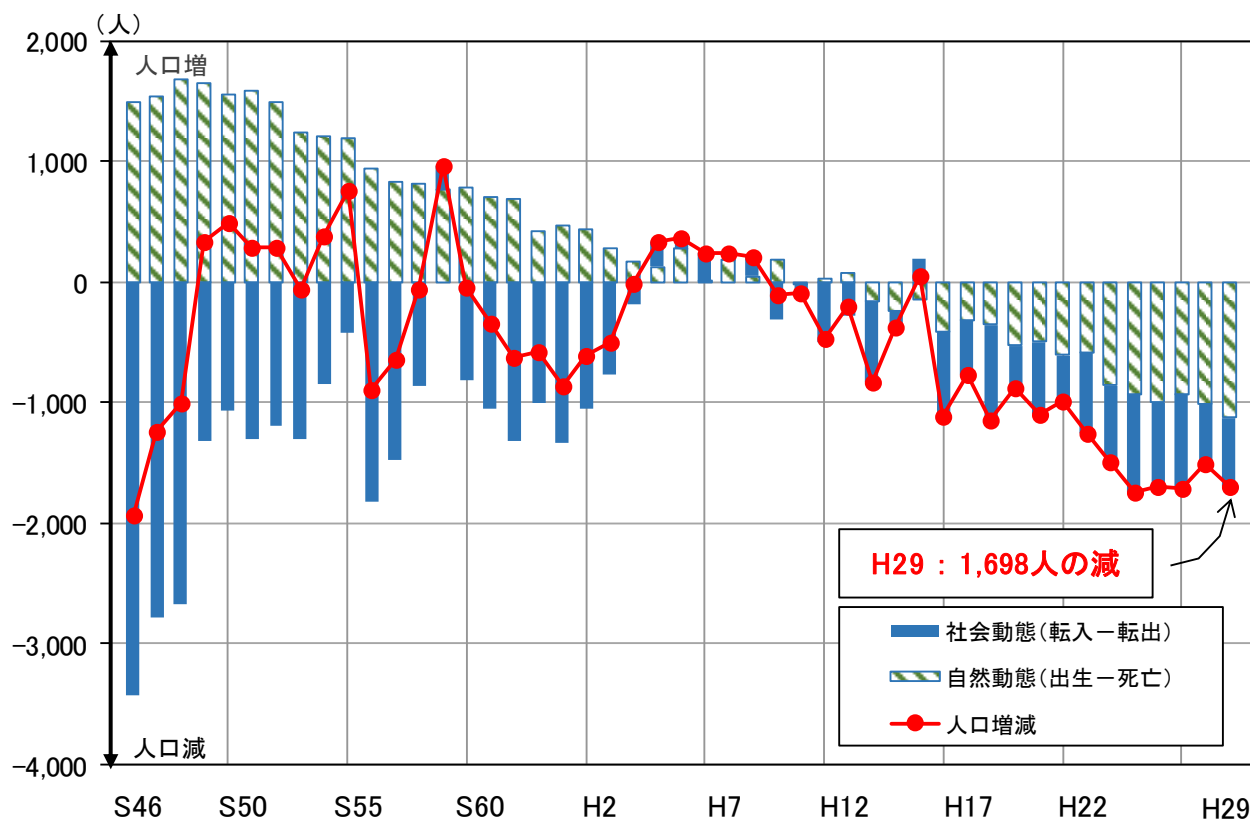
② 地域自治区別の人口の状況

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考 H27/S55
	S55	H22	H27	
高田	41,356	30,421	28,930	70%
新道	6,548	9,684	9,993	153%
金谷	11,011	14,332	14,174	129%
春日	9,401	21,187	21,645	230%
諏訪	1,495	1,223	1,176	79%
津有	4,654	5,038	4,876	105%
三郷	1,373	1,374	1,339	98%
和田	5,200	5,840	5,801	112%
高士	2,169	1,561	1,437	66%
直江津	21,953	19,673	19,248	88%
有田	10,399	14,329	14,966	144%
八千浦	4,815	4,281	3,973	83%
保倉	2,773	2,303	2,178	79%
北諏訪	1,589	1,632	1,540	97%
谷浜・桑取	3,106	1,823	1,639	53%

地域自治区	国勢調査人口 (人)			参考 H27/S55
	S55	H22	H27	
安塚	5,937	2,878	2,491	42%
浦川原	4,980	3,769	3,442	69%
大島	3,939	1,927	1,613	41%
牧	4,559	2,322	2,001	44%
柿崎	13,702	10,660	9,837	72%
大潟	10,751	9,950	9,475	88%
頸城	8,232	9,499	9,267	113%
吉川	7,072	4,764	4,234	60%
中郷	5,957	4,303	3,867	65%
板倉	9,008	7,327	6,831	76%
清里	3,495	3,015	2,780	80%
三和	6,679	5,918	5,625	84%
名立	4,167	2,866	2,609	63%
市全体	216,320	203,899	196,987	91%

出典 総務省「国勢調査」により作成
 ※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

③ 人口動態の推移（S46～H29）



年度	各年度の人口動態							
	出生 ①	死亡 ②	自然動態 ③=①-②	転入 ④	転出 ⑤	社会動態 ⑥=④-⑤	人口増減 ⑦=③+⑥	
近年の推移	H23	1,659	2,237	△ 578	4,409	5,080	△ 671	△ 1,249
	H24	1,545	2,401	△ 856	4,307	4,948	△ 641	△ 1,497
	H25	1,601	2,525	△ 924	4,194	5,013	△ 819	△ 1,743
	H26	1,418	2,419	△ 1,001	4,242	4,943	△ 701	△ 1,702
	H27	1,521	2,449	△ 928	4,154	4,934	△ 780	△ 1,708
	H28	1,427	2,431	△ 1,004	4,333	4,841	△ 508	△ 1,512
	H29	1,347	2,469	△ 1,122	4,225	4,801	△ 576	△ 1,698

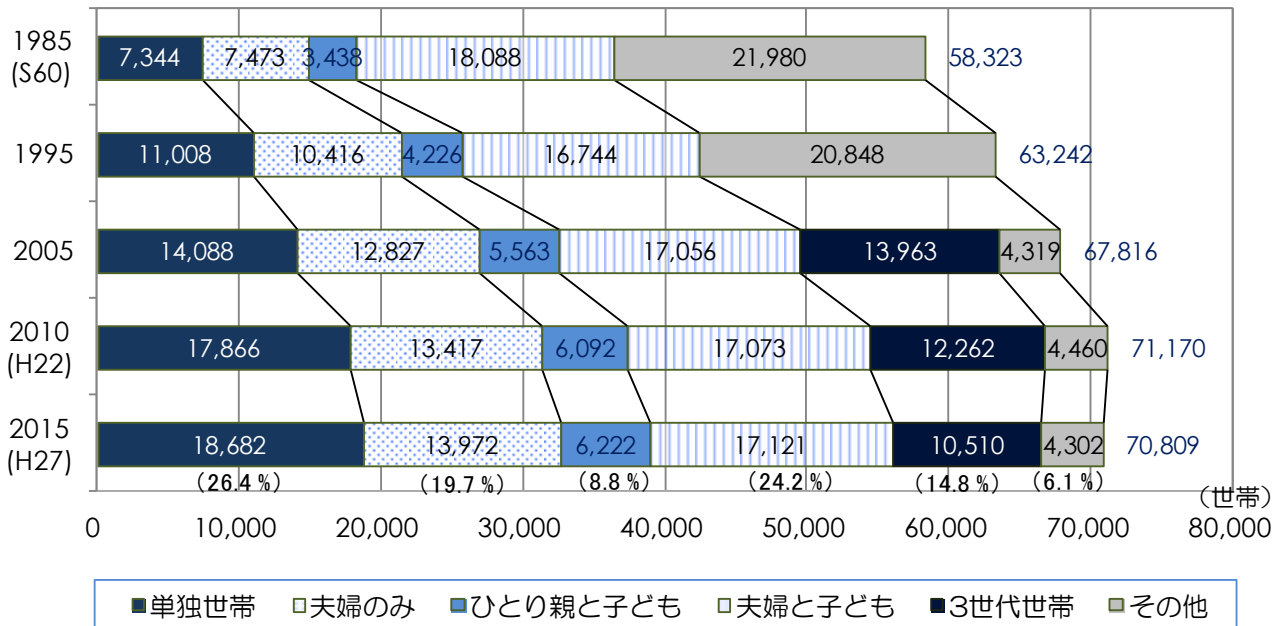
出典 新潟県人口移動調査結果報告により作成

※平成12年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

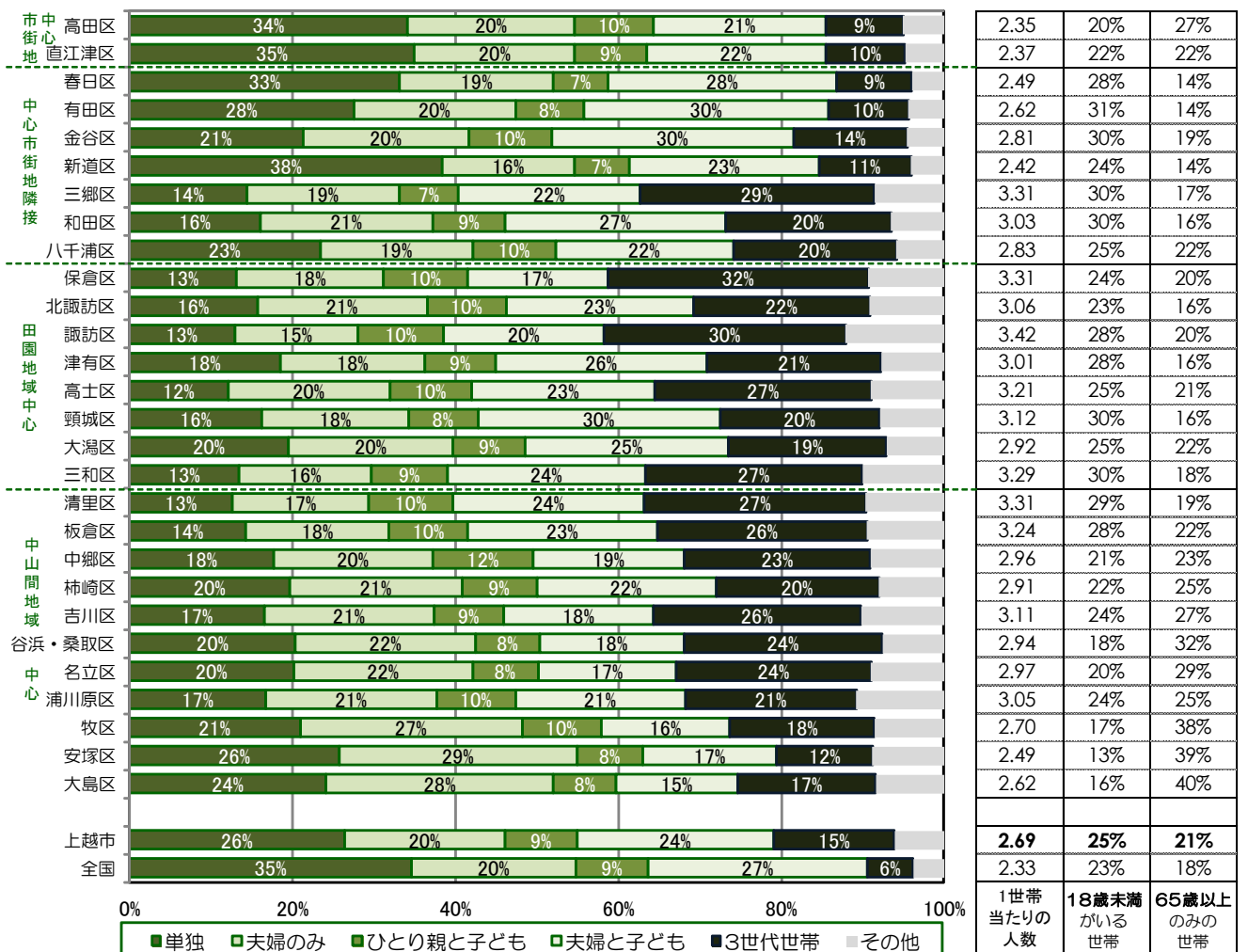
※各年度の人口動態データの対象期間は、前年10月から当年9月までのもの

(2) 世帯

① 世帯構成の推移 (S60~H27)



② 地域自治区別の世帯構成 (H27)



出典 総務省「国勢調査」を基に上越市創造行政研究所作成

2 政策分野別基本施策の状況

(1) 市民が主役のまちづくり

○目標

誰もが個性と能力を発揮する機会が保障されており、市民主体のまちづくりが行われ様々な支え合いの仕組みが整っている「人と地域が輝くまち」を目指します。

○主な取組と現状・課題

[1-1 人権尊重・非核平和友好の推進]

取組

・小中学生を対象とした学習会や平和展等を開催し、人権・非核平和の意識啓発や多文化共生の推進に向けて、学校や地域、関係機関等と連携しながら取組を進めてきた。

現状

・児童・生徒のいじめに対する意識の向上や、若い世代等への非核平和の意識啓発が進んだ。

課題

・情報を発信するメディアの多様化やインターネットの普及により、新たな人権・差別問題が表面化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と答えた児童・生徒の割合	小学6年生 87.9% 中学3年生 73.6%	小学6年生 90.0% 中学3年生 80.0%	○ 順調 (H30 目標以上)
平和展来場者数	843/年	843/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-2 男女共同参画社会の形成]

取組

・男女共同参画に向けた各種講座の開催や普及啓発活動、人材育成に、関係団体・機関等と連携して取り組んだ。また、女性相談では、ニーズに応じた支援の充実に努めた。

現状

・新潟県の「ハッピー・パートナー企業（新潟県男女共同参画推進企業）」に登録する市内事業所が着実に増えてきている。（H26：555社→H30：878社）

課題

・男女間の役割分担に固定的な意識が根強く残り、男女の地位の平等感が低下傾向にある。
・男性は職場において、依然として育児のための休業が取得しにくい環境にある。
・女性相談について、家族、DV、職場、地域、メンタルヘルスなどの様々な要因が複雑に絡み合うような事案が増加してきている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
男女の地位の平等感	29.2%	39.0%	△ 遅れ (H26 値未満)
配偶者から暴力を受けたことがある女性の割合	40.7%	30.4%以下	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-3 ユニバーサルデザインの推進]

取組

- ・啓発冊子の配布や学校等での出前講座の実施によりユニバーサルデザインの普及・啓発活動を行うとともに、公共施設でのユニバーサルデザイン化を推進した。

現状

- ・女性活躍推進法や子ども・子育て支援法の施行などもあり、様々な立場の人たちが暮らしやすい共生社会の実現に向けた環境整備が全国的に進められている。

課題

- ・市民や事業者に対し、ユニバーサルデザインの認知度を高められていない。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
ユニバーサルデザインの認知度	41.4%	45.0%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-1 市民活動の促進]

取組

- ・様々な分野における公共的課題の解決や、まちづくり活動を市民の自主性とノウハウに基づいて推進していくため、市民活動の支援や人材育成、市民参画に向けた情報提供、人口減少・高齢化が深刻な中山間地域の支え合い体制の構築に取り組んだ。

現状

- ・市民活動団体の登録団体数は増加したものの、新規会員の減少や役員の高齢化が進んでいる。
- ・ICTの活用やSNSの普及により、活動の担い手同士の情報共有やつながりづくり、若者の地方回帰などの効果が表れている。

課題

- ・人口減少や高齢化の進行などにより、市民活動団体の活動は衰退しており、中山間地域では支え合い体制が弱まっている。

※人口減少や少子高齢化、世帯構成の変化を要因とするものに二重線を付しています。以下同様。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域活動や市民活動に参加している市民の割合	42.5%	47.0%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-2 地域自治の推進]

取組

- ・地域協議会による地域課題の抽出や解決策の検討、各地域で活動する様々な団体等との意見交換会の開催等を支援した。

現状

- ・各地区の地域協議会が計画的に開催され、市民の認知度も高まっている。
- ・地域コミュニティ活動を支援した地域では、課題解決に向けた主体的な話し合いや地域の活力につながっている。

課題

- ・中山間地域や中心市街地を中心に、人口減少や高齢化の進展等により地域自治の担い手の確保が困難な地域が拡大している。
- ・中山間地域では、地域における支え合い体制の脆弱化が特に深刻化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域協議会について知っている市民の割合	—	30.0%	○ 順調 (H30 目標以上)

(2) 防災・防犯分野

○目標

日頃から地域全体として災害や犯罪・事故等への備えが整い、安全・安心に暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[1-1-1 大規模災害への対応力の強化]

- 取組**
- ・地域防災計画に基づき、危機管理能力の向上に向けた職員の研修や訓練を行うとともに、洪水等のハザードマップの作成・配布や避難所の物資等の配備、福祉避難所の指定等に取り組んだ。
 - ・原子力災害に係る屋内退避・避難計画の策定と住民周知、資機材の整備を行った。
- 現状**
- ・避難所への大規模災害に備えた発電機等の資機材の配備が完了した。また、福祉避難所へ避難する要支援者の個別避難計画の策定や避難所での福祉スペース設置が進んだ。
- 課題**
- ・県の津波浸水想定公表や今後の洪水想定追加公表、土砂災害計画区域の指定を受け、避難所の見直しやハザードマップの更新等の対応が求められる。
 - ・原子力防災における広域的な避難体制の整備について、県計画の策定が進まず、遅れている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
避難所運営資機材	22.7%	100%	○ 順調 (H30 目標以上)
避難行動要支援者の個別避難計画作成率	33.7%	95%以上	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-1-2 災害に強い都市構造の構築]

- 取組**
- ・橋梁やガス・水道の耐震化や、河川施設の維持管理等の治水対策、地すべり防止区域における巡視活動等の治山対策に取り組んだ。
 - ・旧耐震基準の木造住宅の耐震性の向上や、老朽化した空き家の適正管理の助言・指導を行った。
- 現状**
- ・地域住民による河川除草等の清掃活動が継続できず、行政による対応の要望が増加している。
 - ・木造住宅の居住者の高齢化等により耐震化の意識が低下し、耐震診断件数が減少している。
 - ・人口減少や核家族化等により空き家が増加傾向にある。
- 課題**
- ・木造住宅の耐震化のほか、空き家の除却・適正管理や利活用の促進が必要となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
下水道（雨水幹線）の整備率	66.3%	66.9%	○ 順調 (H30 目標以上)
木造住宅の耐震診断数	396 件	520 件	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-2-1 消防体制の整備]

取組 ・常備消防の機能整備のほか、消防団員の技術向上の訓練や団員の確保、消防備品等の更新・整備を進めた。

現状 ・常備消防では、糸魚川市の大規模火災を受けた市街地における防災・消火対策や、(仮称)消防本部・上越北消防署の移転事業が進んでいる。
 ・消防団員の減少と高齢化が進んでおり、消防団の適正配置の検討に着手している。

課題 ・市街地の家屋連担地域における火災に対する水利等の充実や、常備消防と消防団の連携の強化が必要である。
 ・消防団の適正配置による地域消防力の確保が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
常備消防機能の整備と再配置	整備と再配置の方向性が未定	整備と再配置の方向性が決定	○ 順調 (H30 目標以上)
消防団員数	4,490 人	4,590 人	△ 遅れ (H26 値未満)

[1-2-2 地域防災力の維持・向上]

取組 ・自主防災組織の結成を促進するとともに、自主的な防災訓練、防災士の養成などを支援した。

現状 ・自主防災組織の組織率は上昇しているものの、高齢化や過疎化による防災活動の担い手不足や訓練の形骸化が見られる。

課題 ・自主防災組織の担い手づくりや活動の継続による地域防災力の確保が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
自主防災組織の組織率 (町内会単位)	91.4%	100%	△ 遅れ (H26 値以上)
毎年訓練を行う自主防災組織の割合	66.1%	100%	△ 遅れ (H26 値以上)

[1-3-1 防犯対策の推進]

取組

・多様化する犯罪に対応するため、出前講座等による犯罪情報の発信や注意喚起、防犯週間等の機会を捉えた地域防犯力の向上に取り組んだ。

現状

・刑法犯認知件数は減少傾向が続いている。

課題

・特殊詐欺等の新たな犯罪の増加や多様化・巧妙化への対応が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
刑法犯認知件数	1,350 件/年	1,280 件/年以下	○ 順調 (H30 目標以上)
犯罪への不安を感じない市民の割合	26.0%	30%	○ 順調 (H30 目標以上)

[1-3-2 交通安全対策の推進]

取組

・警察、交通安全協会、安全運転管理者協会などの関係機関と連携し、園児から高齢者までの対象に応じた交通安全教育や、地域安全支援員の委嘱や研修会を実施した。

現状

・交通事故発生件数及び死傷者数は減少しているが、当該件数に占める高齢者の割合は増加傾向にある。

課題

・高齢者が被害者や加害者となる交通事故の抑止・減少が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
交通事故発生件数	665 件/年	635 件/年以下	○ 順調 (H30 目標以上)
交通安全対策に満足している市民の割合	35.4%	38%	△ 遅れ (H26 値以上)

(3) 環境分野

○目標

市民一人ひとりに環境に対する意識が根付き、自ら行動することにより、豊かな自然が大切に守られ、良好な環境の中で心地よく暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[2-1-1 ごみ減量・リサイクルの推進]

- 取組**
- ・ごみの分別と減量意識を醸成するとともに、高齢化の進行に対応したごみヘルパーの配置や町内会等によるクリーン活動、環境パトロール等を実施した。
- 現状**
- ・ごみの排出量は、家庭系は減少傾向であるが、事業系は景気動向などにより変動がある。
 - ・スマートフォンなどの電子媒体の普及により紙媒体の普及率が減少傾向にあり、再資源となる新聞紙や雑誌類の排出量が減少している。
 - ・大手スーパーによるレジ袋の有料化や資源物の店頭回収、企業による環境イベントなど企業のCSR（企業の社会的責任）等の取組が増加した。
- 課題**
- ・不法投棄や未分別ごみの排出が依然として見られる。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市民1人当たりのごみ排出量	949 g	948 g / 日以下	△ 遅れ (H26 値未満)
家庭ごみの資源化率	48.1%	50%	△ 遅れ (H26 値未満)

[2-1-2 環境汚染の防止]

- 取組**
- ・地盤沈下などの公害の発生を防止するため、法令等に基づく計測や規制の遵守に向けた監視を行うとともに、必要な改善指導等を行った。
- 現状**
- ・公共下水道と農業集落排水の接続率、合併処理浄化槽の設置率の向上に取り組んだ。
 - ・公共下水道等への接続率が向上し、水質汚濁の防止につながっている。
 - ・地盤沈下注意報の発令までのタイミングが短期化する傾向にある。
- 課題**
- ・人口減少や高齢化に伴う後継者不足を背景に、受益者負担金や排水設備工事費の負担が困難となり、下水道接続を拒否する世帯が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
公害苦情件数	32 件 / 年	30 件 / 年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
汚水衛生処理率	80.3%	83%	○ 順調 (H30 目標以上)

[2-1-3 自然環境の保全]

- 取組**
- ・自然環境保全地域の指定や保全活動、レッドデータブックの普及啓発に取り組んだ。
 - ・ツキノワグマやイノシシなどの大型野生動物による人身や農作物の被害防止を図った。
- 現状**
- ・自然環境ツアーの参加者が増加するなど、自然環境に対する意識高揚の傾向が見られる。
- 課題**
- ・特定外来生物の生息生育エリアが拡大しつつあるほか、大型野生動物が市街地近郊へ出没する頻度が年々高くなってきている。
 - ・イノシシの頭数の急増による水稲被害が拡大している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
イノシシによる水稲の被害面積	3.0ha/年	2.5ha/年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
開発事業者等の届出義務違反の件数	0 件/年	0 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[2-2-1 地球温暖化対策の推進]

- 取組**
- ・公共施設等における再生可能エネルギーの利用促進や照明の LED による省エネルギー化のほか、住宅への太陽光発電システムの設置支援や雪冷熱エネルギーの活用を推進した。
- 現状**
- ・市内の住宅で太陽光発電や LED、エコカーが普及した。
- 課題**
- ・再生可能エネルギーの買取価格が年々低下している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内の住宅用太陽光発電システムによる合計出力	3,630kW	5,070kW	△ 遅れ (H26 値以上)
世帯当たりの年間電力消費量	6,024kWh	6,024kWh/年以下	-

[2-2-2 環境学習の推進]

- 取組**
- ・市民への環境情報の発信や環境学習の機会を提供したほか、市役所において環境マネジメントシステムの定着に取り組んだ。
 - ・全市クリーン活動や環境パトロールによる環境美化の推進に取り組んだ。
- 現状**
- ・環境イベントへの参加者数が増加し、また、各地域で環境保全活動が展開されるなど、環境に対する意識が高まっている。
 - ・社会貢献活動として清掃活動を行う企業や団体が増加している。
- 課題**
- ・新興住宅地やマンション、アパートの集合住宅では、環境に対する意識やごみの分別意識が低い傾向にある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
全市クリーン活動参加者数	58,182 人/年	60,000 人/年	○ 順調 (H30 目標以上)

(4) 健康福祉分野

○目標

誰もが生涯を通じてこころと体の健やかさを保てる環境が整い、安心して自分らしく暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[3-1-1 こころと体の健康の増進]

- 取組**
- ・保健指導、健康講座等を行い、市民が生活習慣病予防を主体的に実践できるよう支援したほか、自殺予防等のこころの健康サポートや公衆衛生環境の保全に取り組んだ。
- 現状**
- ・国保後期高齢者の1人当たり医療費の伸びは鈍化し、要介護認定率も減少している。
 - ・自殺者数は減少傾向にあるが、国・県と比較して自殺死亡率が高い。
- 課題**
- ・市民健診（事業所等による受診機会のない40歳未満の人が対象）の受診率が低い。
 - ・脳血管疾患等の原因となる高血圧や糖尿病の人の割合が増加傾向にある。
 - ・自殺等に関する相談者への支援体制の構築が必要である。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
特定健診受診率と特定保健指導の実施率	特定健診受診率 45.8% 特定保健指導実施率 57.7%	国の目標値以上	△ 遅れ (H26 値以上)
自殺者数	69人/年	減少傾向へ	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-1-2 地域医療体制の充実]

- 取組**
- ・上越地域医療センター病院の医療機器の整備等の機能強化や、病院と診療所との医療ネットワークの構築、休日や夜間等の救急医療体制の確保に取り組んだ。
- 現状**
- ・地域医療センター病院の利用者は増加し、安定した経営を維持している。
 - ・医師不足により、市内の急性期病院で休床せざるを得ない状況にある。
- 課題**
- ・上越地域医療センター病院の老朽化が進み、改築の方針を検討する必要がある。
 - ・地域の医師不足や市立診療所の医師の高齢化に対応した、医師の確保が必要である。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
市内医療機関等から上越地域医療センター病院への紹介患者数	1,880人/年	1,880人/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-2-1 高齢者福祉の推進]

- 取組** ・訪問による個別指導や健康相談等による介護予防や、就労機会の提供や老人クラブ活動の活性化等の生きがいづくり、地域包括ケアシステムの構築による最適なサービス提供、地域全体で高齢者を見守る体制づくりを進めた。
- 現状** ・要介護認定率がほぼ横ばいを保っており、介護予防の取組に一定の成果が出ている。
- ・老人クラブの会員数や高齢者の趣味講座の受講者は減少傾向にある。
- 課題** ・団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」を見据え、増加が予想される骨折や認知症の予防対策が急務である。
- ・介護サービスを利用していないひとり暮らし高齢者などの孤立死が生じている。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
第1号被保険者(65歳以上)の要介護1以上の認定者数	9,380人	10,576人	△遅れ (H26値以上)
高齢者の訪問指導をした人で、要介護状態へ移行した人の割合	2.0%	2.0%以下	○順調 (H30目標以上)

[3-2-2 個性を尊重した障害者福祉の促進]

- 取組** ・障害のある人の就学・就労支援の充実や、外出・移動支援等による社会参加の推進に取り組んだ。
- 現状** ・上越管内の障害者雇用率(H29.6)は2.03%で、法定雇用率(2.0%)を上回り、就労の意向も増加している。
- 課題** ・生活介護サービスや短期入所サービスの提供施設や、入所施設からの移行が進められるグループホームや放課後等デイサービスの不足が生じている。

主な目標項目	H26当初	H30目標	H29進捗状況
障害者実雇用率	1.51%	1.8%	○順調 (H30目標以上)
福祉事業所就労における平均月額賃金	12,696円	13,416円	○順調 (H30目標以上)

[3-2-3 複合的な課題を抱える世帯への支援]

取組 ・複合的な課題を抱える世帯等の相談体制の強化や、生活保護世帯等の早期の自立へ向けた支援の充実に取り組んだ。

現状 ・複合的な課題を抱え、各種制度の隙間で支援につながらないケースが増加している。
 ・こども食堂など、新たなコミュニティ活動の取組が全国や地域で広がっている。

課題 ・子供から高齢者まで切れ目なく包括的な相談・支援が受けられる仕組みの構築や関係機関との連携対応が必要である。
 ・生活困窮者の支援では、深刻化する前の早い段階での介入が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
地域が生活困窮者の支援にかかわっている割合	41.5%	50%	○ 順調 (H30 目標以上)

[3-3-1 子育てに関する負担や不安の軽減]

取組 ・母子保健の充実や、子ども医療費助成の拡大・無料化等による経済的負担の軽減、保護者同士の交流やこどもセンターのリニューアル等による子どもの育ちの充実や子育ての不安感・孤立感の緩和に取り組んだ。

現状 ・少子化の進行や核家族、ひとり親世帯の増加、ライフスタイル・価値観の多様化など、子育て環境が変化している。

課題 ・児童虐待やDVの相談が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
出産や子育てがしやすいと感じる市民の割合	53.8%	53.8%	△ 遅れ (H26 値未満)
合計特殊出生率	1.68	1.68	△ 遅れ (H26 値未満)

[3-3-2 子育て環境の充実]

取組 ・保育園の環境整備や施設の再編・改築、保護者の就労形態やニーズの多様化に対応した延長保育や未満児保育、病児・病後児保育などの多様な保育サービスを提供した。

現状 ・ファミリーヘルプ保育園や病児・病後児保育室などのサービスメニューは、他自治体に比べて充実している。

課題 ・土曜日の保育や、病児保育室の増設などのニーズが高まっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
待機児童数	0人	0人	○ 順調 (H30 目標以上)

(5) 産業・経済分野

○目標

力強く自立性の高い地域経済が構築され、生活の糧となる働く場を選択することができ、生きがいをもって暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[4-1-1 ものづくり産業・商業の振興]

- 取組** ・各種制度融資等による中小企業の経営安定化や、新商品・新技術の開発支援、中心市街地や商店街の維持・活性化に取り組んだ。
- 現状** ・平成30年4月、中小企業・小規模企業振興基本条例を施行し、地域を挙げて地元企業を支援する環境が整った。市内経済は回復傾向が続いている。
 ・メイド・イン上越の認証件数や、企業の設備投資の支援件数は増加傾向にある。
 ・街なかの回遊やにぎわい創出につながるオーレンプラザや、新水族博物館等の新たな拠点施設の整備が進んでいる。
- 課題** ・小規模な事業者を中心に依然として景気回復を実感できない状況であり、商工会の会員数も減少し、運営環境が厳しくなることが想定される。
 ・製造業等では人手不足が顕在化し、人材育成やIoT等の普及が求められる。
 ・商店街では少子高齢化や、居住人口の減少等による空洞化に対応した経営が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
メイド・イン上越認証品数	13 品	96 品	○ 順調 (H30 目標以上)
中心市街地における空き店舗の活用支援件数	2 件/年	4 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-1-2 物流・貿易の振興]

- 取組** ・港湾管理者である新潟県や港湾関係団体との連携の下、直江津港の集荷力増加に向けた取組や、メタンハイドレートの周知活動、物流・貿易の活性化を支援した。
- 現状** ・中部電力(株)の上越火力発電所や国際石油開発帝石(株)の直江津 LNG 基地が稼働し、東北電力(株)の LNG 火力発電所が運転予定であるなど、エネルギーの供給拠点化が進む。
- 課題** ・定期コンテナ船業界の世界的な競争激化や中国経済の減速などにより航路数が減少し、貨物取扱量も減少している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
直江津港の外貿定期コンテナの仕向け地など	4 航路	航路数の増加・コンテナの仕向け地の多様化	△ 遅れ (H26 値未満)
外貿定期コンテナ取扱量	30,058 個/年	50,000 個/年	△ 遅れ (H26 値未満)

[4-1-3 新産業・ビジネス機会の創出]

取組

・企業立地や事業拡大の推進のほか、商工団体や金融機関との連携による起業・創業の総合的な支援や、新たな市場開拓に向けた経済交流を推進した。

現状

・北陸新幹線の開業や上信越自動車道の4車線化は、新しい人の流れを生み、鉄道路線や直江津港との相乗効果により、企業誘致の強みとなっている。
 ・上越市総合支援ネットワークによる創業の支援体制が整い、創業セミナーや創業塾の参加者が増加傾向にあるなど、創業・第二創業の関心が高まっている。

課題

・経営者の高齢化や後継者不足による廃業が増加傾向にあり、市内の民間活力が低下するおそれがある。立地企業でも、人口減少の影響で人材確保が課題となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
産業団地の売却額	5,596 万円/年	2 億円 (H27~H30 合計)	○ 順調 (H30 目標以上)
見本市等への出店を支援した事業者数	8 事業者/年	40 事業者/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-2-1 観光の振興]

取組

・地域資源や北陸新幹線の開業等の広域交通網をいかした誘客促進や、インバウンドの推進、市内の回遊性向上に市内の関連団体や交通事業者等と連携して取り組んだ。

現状

・冬期間にオーストラリアから妙高市へ訪れる外国人観光客を中心に、上越地区の外国人宿泊者数は増加している。
 ・当市の観光入込客数は減少傾向である。

課題

・毎年過去最高を更新する訪日外国人旅行者に対し、効果的な情報発信と当市への誘客を促進する。
 ・新水族博物館の開館や総合博物館のリニューアルに伴う観光客の市内周遊を促進する。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内への観光客入込数	5,687,400 人/年	7,500,000 人/年	△ 遅れ (H26 値未満)
市内宿泊施設の定員稼働率	32.4%	41.6%	△ 遅れ (H26 値未満)

[4-2-2 交流機会の拡大]

- 取組** ・北陸新幹線の開業により向上した交通アクセスをいかし、各種コンベンションやスポーツ合宿等の誘致に取り組んだ。
- 現状** ・(仮称) 上越市体操アリーナや県立武道館などの整備が進んでいる。東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地としてドイツ体操チームの招致が決定した。
- ・上越観光コンベンション協会によるコンベンションの誘致件数は増加傾向にある。
- 課題** ・各種競技団体との大会・合宿誘致時の連携促進や、当市の施設環境の優位性や魅力を東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿を契機に発信していく必要がある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
全国規模のスポーツ大会等の誘致件数	3 件/年	6 件/年	△ 遅れ (H26 値未満)
100 人以上の宿泊を伴うコンベンションの誘致件数	6 件/年	11 件/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[4-3-1 就労支援の充実]

- 取組** ・ハローワークや商工団体等の関係機関と連携し、若者やUIJターン者等の就労や資格取得の支援、ワークライフバランスの推進などに取り組んだ。
- 現状** ・求人が求職を上回り、有効求人倍率が1倍を超えて推移している。
- ・国を挙げて、働き方改革やワークライフバランスの一層の推進に向けた機運が高まっている。市内の女性の就業率も上昇傾向にある。
- 課題** ・将来にわたって労働力不足が懸念されており、生産工程の機械化・自動化のほか、外国人や女性等による新たな労働力の確保が急務である。若手社員の早期離職率も高い。
- ・労働力不足に起因する長時間労働により、仕事と家庭生活との両立が一層困難になる。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
有効求人倍率	0.86 倍	1.00 倍	○ 順調 (H30 目標以上)
高校新卒者の地元就職割合	78.6%	80%	△ 遅れ (H26 値未満)

(6) 農林水産分野

○目標

なりわいとしての農林水産業や農山漁村に活力があり、そこから生み出される多様な恵みを受けて豊かに暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[5-1-1 農業の振興]

取組

・圃場整備等による生産基盤の強化や、認定農業者や新規就農者の確保・育成、集落営農の組織化・法人化、園芸複合経営や6次産業化による所得向上の取組などを支援した。

現状

・農地の集積・集約化により生産コストが削減されるとともに、多様な用途別品種が作付され、幅広い実需に対応できる基盤が整ってきている。
 ・平成30年産からの米政策の見直しにより、主食用米の作付統制が効かなくなることから、米の過剰作付けが増加し、更なる米価の下落が想定される。

課題

・農業者の減少と高齢化が進み、担い手・後継者が不足している。
 ・農業者の園芸の導入や6次産業化が低い状態にあり、水稻単一経営からの脱却が遅れている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
新規就農者数	28 人/年	31 人/年	△ 遅れ (H26 値未満)
認定農業者等の担い手への農地集積率	59.7%	75%	△ 遅れ (H26 値以上)

[5-1-2 林業・水産業の振興]

取組

・国、県などと連携し、担い手の育成・確保や所得向上、林業・水産資源の維持に取り組んだ。

現状

・市内産木材の出荷量は増加傾向にある。
 ・漁業経営体当たりの平均漁獲量が近年増加している。

課題

・平成31年度に創設される森林環境税を財源とし、森林整備を推進する。
 ・漁業就労者の高齢化は全国平均を大きく上回っており、担い手の確保と所得向上が課題である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
森林組合等による市内産木材（間伐材含む。）の出荷量	1,450 m ³ /年	1,450 m ³ /年	○ 順調 (H30 目標以上)
1 漁業経営体当たりの平均漁獲量	3.4t/年	3.4t/年	○ 順調 (H30 目標以上)

[5-2-1 中山間地域の振興]

- 取組** ・中山間地域の農林業を担う集落やマネジメント組織等の活動を支援したほか、地域の支え合い体制づくりや移住促進、里地里山の保全に取り組んだ。
- 現状** ・全国的に若い世代を中心に、都市部から中山間地域の農村へ移住しようとする「田園回帰」の意識の高まりが見られ、当市においても移住相談件数が増加している。
- 課題** ・不作付地の増加や労働力不足、後継者不足が生じている。また、地域の支え合い体制のせい弱化により集落活動の維持が困難になってきている。
 ・有害鳥獣による農作物被害の拡大による農地の荒廃が懸念される。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
移住希望者からの相談対応件数	67 件／年	70 件／年	○ 順調 (H30 目標以上)
中山間部に住んでいる市民の暮らしやすいと感じている割合	72.8%	75%	△ 遅れ (H26 値未満)

[5-2-2 農・食を通じた生きる力の向上]

- 取組** ・食育関連イベントの開催や地産地消推進の店の認定などによる食育活動の推進や、農業分野における障害のある人の就労機会の創出などに取り組んだ。
- 現状** ・学校給食での地場産野菜の使用率が増加しているとともに、農産物直売所の販売額も伸びている。
- 課題** ・食育の認知度は増加しているものの、関心を持つ市民の割合は高まっていない。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
食育に関心を持っている市民の割合	77.0%	90%	△ 遅れ (H26 値未満)
地産地消推進の店の認定数	111 店	150 店	○ 順調 (H30 目標以上)

(7) 教育・文化分野

○目標

学び高め合う環境が整い、まちの歴史・文化が誇らしく感じられ、心豊かに暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[6-1-1 「知・徳・体」を育む学校教育の推進]

- 取組** ・授業改善や指導力向上等による基礎学力の向上の取組に加え、上越カリキュラムの実践や、キャリア教育、ICT教育などによる特色ある学校教育を推進した。
- 現状** ・全国標準学力テストの偏差値は、小学校が平均程度、中学校では全国平均を上回っている。
・上越カリキュラムによる学校教育が定着し、特色ある学校運営が実施されている。
- 課題** ・小学校低学年の学びに向かう力の向上や、中学生の学力向上、家庭学習の定着が課題である。
・就学相談件数が増加しており、障害等の特性に応じ地域の学校で学べる環境づくりが必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
児童・生徒の全国標準学力テストの偏差値	全学年・全教科で全国平均と同程度または上回る。	全学年・全教科で全国平均と同程度または上回る。	○ 順調 (H30 目標以上)
授業がよく分かる児童・生徒の割合	-	小学生 85% 中学生 80%	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-1-2 学校教育環境の整備]

- 取組** ・保護者の経済的負担の軽減等による子どもの学びの保証や、特別な支援を要する子どもや不登校、いじめ問題への対応を図るとともに、学校の適正配置・整備を進めた。
・学校・家庭・地域が連携し、コミュニティ・スクールや地域青少年育成会議等の活動を充実するなど地域ぐるみの教育を推進した。
- 現状** ・少子化に伴い、児童・生徒数の減少や複式学級が増加している。
・コミュニティ・スクールや地域青少年育成会議等の活動が着実に定着し、学校・家庭・地域が互いに支え合う関係が構築されてきている。
- 課題** ・複式学級が常態化する学校や、中学校の生徒数の減少が加速する中で、地域や保護者の意見を踏まえた適正配置が必要である。
・児童生徒の問題行動や家庭問題が複雑化・多様化している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
不登校の児童・生徒数	小学生 19 人／年 中学生 130 人／年	小学生 10 人／年以下 中学生 100 人／年以下	△ 遅れ (H26 値未満)
地域青少年育成会議事業等への地域住民の参加者数	68,170 人／年	70,000 人／年	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-2-1 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進]

- 取組** ・教育機関等と連携し、地域資源・人材を活用した多様な学習環境の提供や、公民館活動を通じた地域活動を担う人づくり、図書館活動の推進に取り組んだ。
- 現状** ・社会の情報化や多様化により、市民の学習の興味・関心も多様なものになっている。
- 課題** ・時代の変化や市民の学習ニーズに対応した学習機会の提供や、地域の実情に応じた学習活動が必要である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
生涯学習団体の登録数	420 団体	450 団体	△ 遅れ (H26 値未満)
高田図書館、直江津図書館、分館・分室の本の貸出利用者数	210,670 人／年	213,000 人／年	△ 遅れ (H26 値未満)

[6-2-2 スポーツ活動の推進]

- 取組** ・市民が気軽に参加できる教室や大会の開催、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体への支援などのほか、指導員養成等によるスポーツ競技力の向上に取り組んだ。
- 現状** ・東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致や、(仮称) 上越市体操アリーナや県立武道館の整備などにより、スポーツ、体力・健康づくりへの関心が高まっている。
- 課題** ・子どもから高齢者までのライフステージに応じたスポーツ活動の推進とともに、人口減少や競技種目の多様化により変化する競技人口やニーズへの対応が必要である。
- ・ジュニア層の選手発掘や育成強化が求められている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市内の総合型地域スポーツクラブ、体育協会に属する会員数	25,440 人	26,200 人	△ 遅れ (H26 値未満)
中高校生の北信越大会と小中高校生の全国大会の出場者数	273 人／年	275 人／年	○ 順調 (H30 目標以上)

[6-2-3 文化活動の振興]

- 取組** ・歴史・文化的資源の保存と活用のほか、博物館や美術館、文化会館などの教育文化施設的环境を整え、文化・芸術に触れる多様な機会の提供と活動の振興に取り組んだ。
- 現状** ・民間による歴史的建造物（旧頸城鉄道本社社屋、岩の原葡萄園石蔵、麻屋高野瞽女資料館など）をいかしたまちづくりや、市民主体の偉人の顕彰事業が進められている。
- 課題** ・少子高齢化により、文化芸術活動や文化財等の保存・継承活動を担う人の高齢化や後継者不足が課題となっている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市指定文化財の件数	314 件	314 件	○ 順調 (H30 目標以上)
上越市美術展覧会の出品者数	339 人／年	370 人／年	△ 遅れ (H26 値未満)

(8) 都市基盤分野

○目標

暮らしと産業を支える機能的・安定的な都市基盤が整い、魅力的な空間の中で快適に暮らせるまちを目指します。

○主な取組と現状・課題

[7-1-1 インフラ整備の最適化]

- 取組** ・公共施設の損傷が深刻化する前に修繕する予防保全的な維持管理（長寿命化）を推進したほか、各種インフラの整備計画に基づく効率的・効果的な整備に取り組んだ。
- 現状** ・市道整備は、道路整備計画に基づき順調に進んでいる。
- 課題** ・将来の人口減少や少子高齢化による需要変化をしっかりと予測し、公営住宅や都市計画道路の整備を進める必要がある。
・老朽化が進み損傷が著しい橋梁も多くなっており、修繕費が増加している。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市道橋の予防保全型の修繕工事の完了数	15 橋	70 橋	△ 遅れ (H26 値以上)
安全に歩行できる市道の延長	276.7km	286.7km	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-1-2 機能的・効率的な交通ネットワークの確立]

- 取組** ・地域住民や関係事業者との協力により、地域の実態に応じた路線バスの運行の見直しや路線の整理、バスと鉄道の接続性の向上などを進めたほか、広域交通網との連結強化や、冬期間の除雪体制の維持等による交通網の確保に取り組んだ。
- 現状** ・バスは路線の再編・効率化により、路線短縮や減便となった。
・上信越道 4 車線化事業は、H30 年度の完了を目標に工事が進捗している。
・上越魚沼地域振興快速道路（上越三和道路）は順調に工事が進捗しており、国に対して長期的かつ安定的な整備促進を要望している。
- 課題** ・免許返納者数の増加もあり、移動手段としての公共交通の役割が高まっている。
・鉄道事業者は厳しい経営状況にあり、利便性の向上や交流人口の拡大による利用者の増加が課題となっている。
・市街地でも高齢化が進み、自助・共助による除雪の持続が困難になりつつある。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
路線バス・乗合タクシー・スクールバス混乗の利用者数	1,737 千人/年	1,584 千人/年	△ 遅れ (H26 値未満)
上越魚沼地域振興快速道路（上越三和道路）の整備	寺 I C～鶴町 I C 間の工事中	寺 I C～鶴町 I C 間の供用開始	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-2-1 土地利用政策の推進]

- 取組** ・生活の快適さと自然環境の豊かさを確保するため立地適正化計画を策定し、土地利用の適正な規制や誘導、計画的な市街地の整備とサービス機能の維持・集積に取り組んだ。
- 現状** ・市街化区域内の未利用地面積は着実に減少している。
 ・上越妙高駅周辺の商業地域の用途が概ね決まり、開発が本格化してきている。
 ・中心市街地の歩行者・交通量が近年増加し始めている。
- 課題** ・高田のまちなかは、空き家・空き地・駐車場が約2割を占めており、立地適正化計画等に基づき、まちなかの空洞化への対応や魅力向上が課題である。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
市街化区域の未利用地面積	44.9ha	40.3ha 以下	○ 順調 (H30 目標以上)
農業振興地域内の農用地の面積	18,267ha	18,267ha	○ 順調 (H30 目標以上)

[7-2-2 地域の個性をいかした空間形成]

- 取組** ・景観に対するアドバイスやセミナー開催による景観形成の推進や、高田公園の桜等の整備、利用しやすい公園づくりなどにより、自然と調和した都市空間の形成を図った。
- 現状** ・景観形成に意欲的に取り組む地域や、公園管理に取り組むボランティア団体の登録者数が増加するなど、市民意識が高まっている。
 ・新潟県で初となる「全国さくらシンポジウム」を開催し、高田公園の桜を始め、13区の桜名所や取組事例なども全国に発信した。
- 課題** ・景観形成に熱心に取り組む地域や市民団体がある一方で、地域によって温度差があるとともに、活動をする人の高齢化が進んでいる。
 ・公園は、公園施設の充実度合いにより利用者の多い・少ないが顕著に表われている。

主な目標項目	H26 当初	H30 目標	H29 進捗状況
景観の行為の届出について基準に適合しない件数	0件/年	0件/年	○ 順調 (H30 目標以上)
高田公園の桜の健全化(植替え・樹勢回復手当て)	桜の老朽化が目立つ状態	公園の中心的エリアの桜の健全化の完了	○ 順調 (H30 目標以上)